

読者投稿コーナー
ここ掘れかんかん!



好きなように生きる

坂口恭平 (さかぐちきょうへい)
新政府総理大臣

「好きなことやっていいですね」とよく言われる。そう言われると、僕はいつも不思議な気持ちになる。それは「好きなことをやらないでも、生き抜くことができる」人たちの意見だからである。

それ自体ひとつの障害ではないかと僕は思っているが、彼らは健常者と呼ばれている。そんな彼らが人口の8割いる。残り2割の僕たちは、たいてい病院か家の中に閉じこもっている。だからなかなか声が届かない。そんな世界でどうやって生きていったらいいのか――。

戦争反対のデモをしている人々には伝わりにくいかもしれないが、僕にとって年間3万人の自殺者がいる現在は、すでにして戦時中なのである。「死にたい人たちが戦時下に置かれている」というこのことが、健常者たちには全く理解されていない。僕は焦っ

て「いのちの電話」を開設した。でも周りの人は平気な顔をしている。そもそも思考が違うのかもしれない、人間という形が同じだけで。

いま人が死んでいる事実に対して何も対応できない国家を、僕は国家と認められない。だからオリンピックに対して「パラリンピック」があるように、現政府の政治に対して「パラ政治」が必要なのではないか。その提案が僕の「新政府」という考え方である。障害者政治の可能性を見せているつもりだ。

でも、それはたった1人でやる。躁鬱の僕は徒党を組めないのだ。そして同じこともできない。毎日、考えていることが違う。ときどき家に引きこもる。それが僕の自然であり、特質なのだ。

そう、特質のままに生きること。それが「好きなように生きる」という僕の真意である。 **精**